

# 学生に「ノートの取り方」を身に付けさせる



主催：札幌学院大学 FD センター

日時：2012 年 4 月 26 日（木）15:00～16:30

会場：C 館 4 階会議室（事前の申し込みは不要です）

対象：本学の教職員ならびに非常勤講師のみなさま

初年次教育の主要なテーマに「アカデミックスキルズ（論理的思考力や情報収集能力など、大学での勉学や研究に必要な基礎能力）」あるいは「スタディスキルズ（大学で学ぶための基本的な技術・技能）」を身に付けさせる取組があります。これは、高校までの受身の学習姿勢を変え、学生を主体的な学び手に変革する営みといえます

例えば、大学に入学した時点で、学生たちは「真のノートの取り方」を身に付けていません（高校では板書を書き写せば自動的にノートが完成したからです）。したがって、大学の授業で、彼ら彼女らは困惑します。授業を終えたときにノートが真っ白のままだからです。

板書を転写するスキルしか身に付けていない学生に「ノートの取り方」を身に付けさせること。これは大学教育にとってどういう意味を持っているのか？ どのような働きかけが求められているのか？

2012 年度最初の FD 研究会は、学生に「ノートの取り方」を身に付けさせる実践を展開されている先生の経験や問題意識を題材に、参加者間で自由に語り合う場にしたいと思います。

## プログラム概要：

15:00～15:45 報告（話題提供）

皆川 雅章氏（社会情報学部）

新入生にメモやノートを取る習慣を身につけさせる訓練の試み

山越 康裕氏（人文学部）

「入学前 SNS」と「論述・作文」での「ノートの取り方」講義

15:45～ フリーディスカッション

## 獲得目標：

- 大学での学びにおいて「ノートを取ること」の意味と学生の実態について認識を深める
- 学生に「ノートの取り方」を身に付けさせる働きかけについて考えるヒントを得る

## 報告概要：

- 皆川 雅章氏

学習上の1つのスキルとして必要な「メモを取る」、「ノートを取る」習慣を1年次に身につけさせる訓練の試みを、2つの必修科目において行いました。「基礎ゼミナール」では、他の学生の意見をノートにメモし、それをもとに自分の意見を組み立てたり、講義内容のまとめを書いたりするための材料としました。「社会と情報」では、毎回ノート提出を行わせ、板書のノートの取り方や、講義時間の最後に行う課題の出来をチェックし、添削して返却しました。また、普段の学習の積み重ねの重要性を認識させるために、講義ノートをもとに、定期試験のためのまとめを書かせました。今回は「ノートの取り方と学習成果との関連」、「双方向コミュニケーション・ツールとしてのノート」といった視点で、これらの取組みの結果を報告したいと思います。

- 山越 康裕氏

初年次学生（または入学予定者）に対して数年前から二つの場所で「ノートの取り方」の重要性について紹介しています。一つは「入学前 SNS」、もう一つは「論述・作文」科目です。入学前 SNS では、生徒から学生への転換をねらう場として「高校」と「大学」の授業展開の違いについて触れつつ、新たな対策が必要であることに触れ、その方法を紹介しています。また論述・作文では、予習・復習の定着化を図るために、誘導した形でノートの取り方について講義しています。今回はこの二つの内容について報告したうえで、こうしたスキルを定着させるためにはどのような工夫が必要か、参加者の皆様のご意見をうかがいたいと思っています。